

## 敗血症マーカープレセプシン産生に関与するプロテアーゼの特定

溝越 祐志<sup>1)</sup>

鈴木 高史<sup>1)</sup> 澤村 暢<sup>1)</sup>

【背景】敗血症は世界規模で罹患率、死亡数が多い疾患であり、本邦では、敗血症の診断マーカーの一つとして「プレセプシン」が保険適用されている。プレセプシンは単球が菌を貪食する際に、細胞表面に発現しているCD14がリソソーム内で、エラスターゼにより分解され産生されると報告されている。しかし、本研究により別の経路によるプレセプシン産生について新しい知見を得たので報告する。

【方法】ヒトから分取した単球をマクロファージに分化後、大腸菌 (*E.coli*) 刺激によるプレセプシン産生を検討した。また、各種阻害剤添加後のプレセプシン産生への影響を検討した。プレセプシンの測定には自動免疫発光測定装置パスファーストを用いた。

【結果・考察】マクロファージを用いた検討では、エラスターゼ阻害、貪食阻害条件下ではプレセプシンの減少は認められず、既存の報告と異なる結果が得られた。また、リソソーム阻害条件では、既存の報告とは逆にプレセプシン値が上昇するという結果が得られ、一方で、プロテアソーム阻害によりプレセプシン値の減少が認められた。以上より、マクロファージにおいては、リソソームではなく、プロテアソームによりCD14が分解され、プレセプシンが産生されることが示唆された。

---

1) 保健科学部医療検査学科